

日本海が袋型の低圧部になる時に多く観測される。また時には石狩湾に小低気圧が解析されることもある。この型のエコーは北海道に内陸高気圧がある場合に発現し、内陸高気圧がない時は孤状エコーとして観測される。雪の降る地域や日降水量は孤状エコーの場合と殆んど同一に考えてよい。

2. 業務への適用

降雪エコーパターンの現れ方については、低気圧位置その他を時々刻々予想することである程度の予測が可能となった。今後降水量予想を適確に行う方法がつかめれば予報作業上極めて有用となろう。

3. より以上発展させるための方策と障害

細分化された地域の降水量予報を行うためには、メソ

気象や雲物理の知識も必要であるが、少なくとも現在より時間的空間的に密度の濃い高層観測や海上気象観測が必要である。今回の調査では啓風丸の観測資料が得られたが通年の海上高層観測を期待したい。次に地上風の地域代表性や降雪量測定精度などに問題がある。さらに地方機関勤務の者にとっては、衛星資料の入手難、十分な文献に恵まれないこと、忙しい現業の片手間としての調査であることなど問題が山積している。解決策として、同方向を志向するグループを全国的に結集して討議するとか、研究所等の機関に1~2ヶ月集めて共同研究の場を与えるとかの方策を真剣に考えて良いのではなかろうか。

第17期第19回常任理事会議事録

日時 昭和49年6月10日(月) 14.00~17.20

場所 気象庁観測部会議室

出席者 磯野, 小平, 竹内, 二宮, 丸山, 大井, 駒林,
川村, 伊藤, 北川, 中山, 河村各常任理事

報告

〔庶務〕

1. 福岡管区気象台長から、本年度秋季大会と福岡管区気象台研究会とを同時開催とし、同管内職員を参加させたいと申し出があった。

〔南極〕

Polex-North と South についてのインフォーマル・ミーティングを行い、極気象についての記事を“天気”に掲載すること、秋季大会に極気象のセッションを設けることを確認した。

〔講演企画〕

MONEX の第2回勉強会を8月30日に開催する。

議題

1. 定款および細則の一部改正に伴う措置について
定款改正について早急に文部大臣に認可申請の手続きを進める。

総会出席者に、定款改正を定款の規定に違反して行ったような印象を与えたおそれがあるので、定款の定めには何等違反していない。ただ文部省の行政指導にそっていないだけであるから、民法の関係条文を“天気”に掲載し会員に周知する。

2. 学会奨励金受領候補者選定委員について

小野 晃 気象研究所

門脇 俊一郎 気象庁予報部

百足 虎治 //

竹内 清秀 気象研究所

新担当理事

全理事に書面審査を依頼する。

3. 秋季大会のシンポジウムの題名について

“東支那海低気圧に関するシンポジウム”とする。

4. 秋季大会の参加費について

会員500円、学生会員400円、非会員600円とする

5. 次期役員への引継事項

(1) 外国関係事務と人事関係を庶務理事の所掌とし、庶務体制を強化すること。

(2) 学会財政の健全化を検討することを任務とする会計委員会を設けること。

6. 環境放射能監視機関設置にあたっての要望書について

原案のとおり内閣総理大臣、科学技術庁長官、環境庁長官に提出することについて全理事に書面審査を依頼する。

7. 予稿集を簡単にすることについて

いろいろな意見が出たが引き続き常任理事会で検討する。